

老人十戒

● 人となかよくつきあって いつもニコニコすこやかに

● 不平不満をいわぬよう 感謝の気持ちを忘れるな

● 身なりはいつも こざれいに 心ゆたかに 老後を過ごせ

● 余計なことを しゃべらぬように ついひとこどがにくまれる

● いつも車に気をつけて 健康管理も 忘れるな

● 無理を言うまい 無理するな 時代の流れをよく見て暮らせ

● 泣くな ながくない じけるな 長い月日 だ 楽もある

● 厄介者にならぬよう 世話をかけるな 世話やくな

● 心の持ちようで 苦も苦にならぬ 人生苦もありや 楽もある

● 遠いようでも いつかは時が 悔いをおこさず ずしやかにねむれ

願望を抱く

● マラソンの高橋尚子選手を教えた小出監督はこう言っています。

「人間は願望が強くなければならない。」

オレは将来、何歳ぐらいまでに、こういう人間になるぞという強い願望を持つこと。願望が強いと、人間というのは遠回りしながらでも、願望に向かっていくものです。何かをしたい、何かになりたいとは誰しも思うことです。成功しようとすれば単に思うだけではなく、「強く願望すること」です。

よく「運が悪い」とか「男運が悪い」と嘆く人がいますが、それより現状を打破するために何をすべきか、そのことをまず考えてみることで、格好が悪くても、少しでも生活を向上させようと努力している人は、必ずいい方向に進むと思います。格好をつけて、あきらめたように努力しない人は、いつまでたっても、よくて現状維持です。努力をすると絶対に成功するとは限りませんが、しかし努力しない人には幸運の女神が訪れることはないのです。

願いが叶うと片目を人れるだるまさんは、インドから中国に渡ってきた達磨大師がモデルです。彼はお寺で壁に向かって九年間座禅を続けました。その間、しゃべらず、動かなかつたから手足がなくなつたと伝えられています。だるまさんに手足がないのはこのことによるのです。彼はこのように努力したから、悟りを得るといふ願いが叶つたのです。

掲示板

● つらいときこそ、あなたはいいい運をためている

仏教が生んだ日本語

律儀 (りちぎ)

現代語では、「義理がたい」とか「真面目」の意に訳されている。正しくは(りつぎ)と読み、仏教の聖典には、「経・律・論」があり、これを「三蔵」としている。「蔵=収めてあるの意」。経蔵は、お釈迦様が説いた教えで、律蔵は、信者が守るべき戒律であり、論蔵は、仏法とその意義を述べたものを称する。従って、律蔵とは、「悪業」を押さえるために定めた、法律とも言えるものである。

空海の言葉 シリーズ

影は形に随したがつて直なおく、

響は声に逐したがつて応おこず

●●● 影は形のとおりありのままに姿を映すし、鐘の響きは音の大きさに応じて響く

陽が射している限り、どんな形のもでも、影はその形のとおり地面に落ちます。

楽器を大きく鳴らせば、大きく音は響き、小さく鳴らせば、小さく響きます。

ウリのつるには、ナスびはならぬ。「オタマジャクシは蛙の子、ナマズの孫ではないわいな・・・」という歌がありました。これらすべて当たり前のことです。

この世に生きている間に、仏様のような情け深い気持ちで過ごしている人は、あの世に行けば、仏様になれ、この世で、鬼のような残忍な悪業を繰り返している人は、あの世では地獄の鬼に生まれ変わることでしよう。

弘法さんは、「影は形のとおり地面に映し、大きな音は大きく響き、小さな音は小さく響く。それが道理」と言われているのです。

